

埼教組「長時間過密労働実態アンケート」2017年9月～12月実施

埼教組では、全教の「これが原因、わたしの長時間過密労働。これが必要、解決のために」のとくみを、9月～12月のおよそ3ヶ月間実施した。回答は小学校71名・中学校29名の合計100名の教職員から得ることができた。回答方法は負担の多いものから順に「1, 2, 3」までの順位をつける方式をとった。その集計結果が以下である。

原因(要因)項目	1番	2番	3番	合計
①職員会議、学年会、分掌会などの校内会議	10	19	8	37
②担任の業務	24	6	11	41
③学年の業務	0	9	6	15
④分掌の業務	18	13	14	45
⑤県教委などから求められる各種報告書の作成	3	13	14	30
⑥増加する授業時間	14	9	11	34
⑦アクティブラーニングなどを取り入れた授業準備	1	1	6	8
⑧課題、小テスト、補習などの成績向上対策	2	4	6	12
⑨面接などの進路指導対策	0	0	0	0
⑩学校行事	2	6	4	12
⑪学校外部からの持ち込み行事	6	2	2	10
⑫県教委・市町村教委主催の各種研修	2	5	2	9
⑬教員免許更新に関わる講習や書類作成	3	1	3	7
⑭服装指導や登下校指導などの生徒指導	3	1	3	7
⑮部活動指導	8	3	3	14
⑯保護者への対応	3	4	3	10
⑰PTA行事	0	0	0	0
⑱その他具体的に記述を【	1	4	4	9
合 計	100	100	100	300

考察

教職員が1番負担に感じている項目は、担任の業務で約**25%**、2番目は分掌の業務、3番目は増加する授業増となっている。

しかし、1番、2番、3番を合計すると、最も多いのが分掌の業務となり、本来の本務である授業でないことが分かる。また、これに職員会議や学年会議、分掌会議といった項目をあわせると実に約**27%**を占める。

また、見逃せない項目が、県教委などから求められる各種報告書の作成や増加する授業時間である。これらは合わせると約**21%**である。

つまり、分掌の業務や諸会議、各種報告書の作成や増加する授業時間を合わせると約**48%**となり、全体の半分の割合となる。

また、回答率の少ない中学校の先生にとって部活動指導が負担となっていることは、1番、2番、3番を合計すると29人の回答者の14人が負担のベスト3に挙げていることから、約**50%**を占めていることがわかる。

これに加え、次に声を紹介する。